

マイノリティとして生きる

ムスリムとアイデンティティ

写真展

期間：2018年9月29日(土)～10月6日(土)

10:00～18:00 (最終日は17:00まで)

会場：東京大学 東洋文化研究所 1階 ロビー

日本やアメリカでイスラームを実践する人々は、アメリカ人や日本人、アラブ系やパキスタン系など、出身地に由来する呼び名に加えて、ムスリムという名称でくられ、周囲から規範的なイメージで捉えられることが多い。

本企画では、日米それぞれの社会で、これらの人々を撮り続けてきた二人の写真家の作品を通して、外からの一方的なまなざしによって覆い隠されがちな、人々の多様なアイデンティティのありようを光をあてていく。

最終的には、現代のグローバルな関係性の中で、人々の感情や感覚、意識や思考のうちの何が重なり、何が分断を作り出しているのかを考えてみたい。

ワークショップ

日時：2018年9月29日(土)

会場：東洋文化研究所 3階大会議室

13:00～15:00

「マイノリティとして生きるムスリムとアイデンティティ」

Identities of Minority Muslims in the US and Japan

岡井宏文 (早稲田大学)

「日本の状況 ー諸活動からアイデンティティを考える」

高橋 圭 (JSPS/上智大学)

「アメリカの現状 ー「統合」に向けた近年の動きから」

鳥山純子 (立命館大学) コメント

15:30～17:30

「写真がとらえたムスリムとアイデンティティ」

Muslims and Identities Captured

写真提供／登壇者：

リック・ロカモラ (写真家)

佐藤兼永 (フォトジャーナリスト)

鳥山純子 (立命館大学) 通訳

後藤絵美 (東京大学) モデレーター

全イベント

入場無料

参加登録不要



詳細はこちらをご覧ください

ミニトーク Talk Sessions

* 使用言語/Languages

9月30日 (日) 14:00-15:00 リック・ロカモラ × 佐藤 兼永 × 高橋圭 (日本語 & English*)

15:30-16:30 鳥山純子 × 後藤絵美 (日本語)

10月1日 (月) 17:00-18:00 酒井啓子 (日本語)

10月3日 (水) 17:00-18:00 リック・ロカモラ × 高橋圭 (日本語 & English)

10月5日 (金) 17:00-18:00 長沢栄治 (日本語)

10月6日 (土) 14:00-15:00 アサディ ヤスィン × アサディ みわ × 佐藤兼永 (日本語 & English)

登壇者紹介



リック ロカモラ (Rick Rocamora)

カリフォルニア州オークランドを拠点とする記録写真家。米国内の移民の姿を撮り続けてきた。米移民の権利や貢献、公民権運動が生涯にわたるテーマである。自身もフィリピン系移民であり、フィリピンでも不平等や人権問題についての活動を行っている。



佐藤 兼永 (Kenei Sato)

東京を拠点に活動する写真家。フォトジャーナリズムを学んでいたアメリカ・ミネソタ大学在学時にマイノリティとして“アイデンティティの揺らぎ”を自ら経験し、帰国後に外国人をはじめとしたマイノリティと日本社会の関係について取材を始める。ライフワークにおいてはインタビューと執筆も手がけ、2015年に『日本の中でイスラム教を信じる』（文芸春秋）を上梓。



岡井 宏文 (Hirofumi Okai)

早稲田大学人間総合研究センター、招聘研究員。日本のムスリムの生活と地域との関わり合いに関心を持ち研究してきた。著書に『現代日本の宗教と多文化共生—移民と地域の関係性を探る』（共著、明石書店、2018年）、『現代人の国際社会学・入門』（共著、有斐閣、2016年）、『国境を越える—滞日ムスリム移民の社会学』（共著、青弓社、2007年）など。



高橋 圭 (Kei Takahashi)

日本学術振興会特別研究員RPD（上智大学）。スーフイズム（イスラーム神秘主義）を中心に、近現代におけるイスラームの展開に関心を持つ。2016～17年にかけてアメリカのイスラームに関する現地調査に取り組む。主著『スーフィー教団—民衆イスラームの伝統と再生』（山川出版社、2014年）。



鳥山 純子 (Junko Toriyama)

立命館大学国際関係学部、准教授。研究テーマは、ジェンダー、教育、格差。カイロやベイルートで、日常生活の在り方から人々の生き方を探求する。主著『イスラームってなに？ イスラームのくらし』（かもがわ出版、2017）、『女性からみたカイロの生殖の一風景—大家族をめぐる二つの期待の狭間で』村上薫編『不妊治療の時代の中東』（アジア経済研究所、2017年）



後藤 絵美 (Emi Goto)

東京大学日本・アジアに関する教育研究ネットワーク、特任准教授。イスラームに対する現代の人々の理解や実践に関心をもつ。主著『神のためにまとうヴェール—現代エジプトの女性たちとイスラーム』（中央公論新社、2014年）、『イスラームってなに？ イスラームのおしえ』（かもがわ出版、2017年）。



酒井 啓子 (Keiko Sakai)

千葉大学グローバル関係融合研究センター長。科研新領域「グローバル関係学」領域代表者。専門は中東現代政治、特にイラク政治を中心に分析。近著として、『9.11後の世界史』（講談社新書、2018年）、『移ろう中東、変わる日本』（みすず書房、2016年）など。最近では、国際政治の複雑な展開を「関係性」に注目して読み解く「グローバル関係学」の確立に力を入れている。



長沢 栄治 (Eiji Nagasawa)

「イスラーム・ジェンダー学」科研・研究代表者。東京大学東洋文化研究所教授。パレスチナ学生基金（ヨルダンの「ガザ難民」大学生への奨学金支給事業などを実施）理事長。専門は中東地域研究・近代エジプト社会経済史。最近の著書に『現代中東を読み解く』（共編著、明石書店、2016年）、『中東と日本の針路』（共編著、大月書店、2016年）などがある。



アサディ ヤスィン (Yassine Essaadi)

静岡ムスリム協会 代表。モロッコ出身。米国でエンジニア職を経て2006年に来日。英語講師の自営業の傍ら、2010年静岡ムスリム協会を発足し、協会運営や静岡マシドプロジェクトの陣頭指揮をとっている。



アサディ みわ (Miwa Essaadi)

静岡ムスリム協会 事務局長。米国ポートランド州立大学大学院公行政学修士。子育てを通じ、日本で暮らすムスリムとして社会と積極的に関わっている。イスラームやムスリム紹介の講演多数。協会実務を担当。

主催：

科研費 新学術領域研究 グローバル秩序の溶解と新しい危機を超えて—一関係性中心の融合型人文社会科学の確立(代表:酒井啓子) B01班「規範とアイデンティティ」
東京大学 日本・アジアに関する教育研究ネットワーク

共催：

東京大学 東洋文化研究所
科研費 基盤研究(A) イスラーム・ジェンダー学の構築のための基礎的総合的研究(代表:長沢栄治)
科研費 若手研究 現代北米のムスリム社会とスーフイズム—「伝統イスラーム運動」の展開から(代表:高橋圭)

協力: 野久保雅嗣(東洋文化研究所)